

認知症の正しい知識を身につけよう

認知症の正しい知識

気づいて見守る地域づくり

加齢によるもの忘れ

- ・もの忘れに対して自覚がある
- ・日常生活に支障がない
- ・時間や場所の見当がつく
- ・ヒントで思い出せる
- ・体験の一部を忘れる

認知症によるもの忘れ

- ・もの忘れに対して自覚が少ない
- ・日常生活に支障がある
- ・時間や場所が分からなくなる
- ・ヒントがあっても思い出せない
- ・新しいことを記憶できない
- ・体験全体を忘れる

もの忘れの多くは「年のせい」、つまり脳の老化に伴うものです。年をとれば誰もが経験する多少のもの忘れは、認知症ではありません。認知症は、脳の神経組織の障害によって起こる「病気」で、アルツハイマー病や前頭葉側頭葉変性症、脳血管性障害などがあります。病気の種類によっては、もの忘れが早く進行したり、幻覚や妄想などの症状が出て日常生活に支障をきたすことがあります。

認知症は、早く見つけて適切に治療すれば、症状を改善させたり、進行を遅らせたりすることが可能な場合があります。また他の病気が隠れている場合もあります。認知症の初期症状を見逃さずに、できるだけ早く受診しましょう。

【認知症の初期症状】

話にあれこれ、それが多くなる
同じことを言ったり繰り返したりする
しまい忘れや、置き忘れが増える
人柄が変わったように見える
活気がなく、表情が乏しくなる
物事に対する関心が薄れる
簡単なことに失敗が多くなる
人づきあいを避け閉じこもる
など

地域のすべての人たちによる見守り、支え合いによる安心して暮らせるまちづくりをすすめるために、市では今年度、認知症地域資源ネットワーク構築事業に取り組みます。

主な内容は次のとおりです。
認知症地域資源マップの作成
認知症の相談窓口やサービスなどの情報を収集整理し、分かりやすいマップを作成します。
ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク

徘徊SOSネットワーク
地域の見守り・声かけにより、ひとりで安心して外出できるとともに、徘徊高齢者を早期に発見します。

認知症の正しい理解の普及啓発

市民フォーラムの開催や認知症サポーターを養成します。

これらは随時広報紙等でお知らせしますので、みなさまのご参加をお待ちしています。

問い合わせ

地域包括支援センター

(レポートやしろ)

☎43・0431

認知症地域資源マップづくりにご協力を！ 高齢者をサポートしていただける 店舗・事業所などを募集します



地域で高齢者をサポートしていただけるお店（例：お弁当の宅配や食料品の配達、訪問理美容など）、高齢者と地域の方々のふれあいの場（宅老所等）、介護保険外サービスやボランティア活動の提供者等を募集します。

応募いただいた情報をもとに地域資源マップを作成し、一人暮らしや高齢者夫婦、認知症の人などの支援に役立てます。みなさまのご協力をお願いします。

応募資格 市内在住の高齢者にサービス等が提供できる店舗・事業所、ボランティアグループ等

応募期限 11月30日(火)

応募方法 各庁舎窓口センターにある応募用紙にご記入の上、地域包括支援センターに持参、郵送、ファックスでご応募ください。(応募用紙は市ホームページからダウンロードすることもできます)

結果発表 平成23年1月末までに申込者に郵送で通知します。

申し込み・問い合わせ 〒673-1493 加東市社25番地

地域包括支援センター(レポートやしろ) ☎43-0431/FAX40-2422